

3.1 2015年度 事業報告書

1 優先目標の主な成果

(用語の定義)

国際クリケット評議会:International Cricket Council:以下「ICC」とする。

東アジア太平洋地域:East-Asia-Pacific Region:以下「EAP」とする。

1. メディア・コミュニケーション戦略(ICC助成金事業)

メディア・コミュニケーション戦略を策定し、広報活動の強化及びクリケットコミュニティとのコミュニケーション改善に取り組む。

- メディア・コミュニケーション戦略を策定し、新しいウェブサイトの作成に取り組んだ。2016年3月に完成する予定の新しいウェブサイトに合わせてメディア・コミュニケーション戦略の実進を進める予定。

2. CRICKET BLAST(ICC助成金事業)

栃木県佐野市、東京都昭島市及び新たな地域においてCRICKET BLASTプログラムを展開し、競技の体験者数及びプレイヤーの数の増加を図る。

- 栃木県佐野市、東京都昭島市においては、学校訪問、スクールカップ、シリーズからなる CRICKET BLAST プログラムを実施した。昭島市に続き、佐野市でも秋のスクールカップが市長杯として開催した。神奈川県横浜市では初めてスクールカップ及びシリーズからなる CRICKET BLAST プログラムを実施した。それぞれの地域での成果は次の通り:

地域	学校訪問	スクールカップ(春)	シリーズ(春)	スクールカップ(秋)	シリーズ(秋)	ジュニアクラブ
佐野	3,060	8 チーム	44 人	8 チーム	31	57
昭島	2,740	10 チーム	50 人	8 チーム	31	21
横浜	N/A	N/A	N/A	7 チーム	26	N/A

3. 普及スタッフのスキルアップ(ICC助成金事業)

研修会への参加やクリケットヴィクトリアとの人的交流によって普及スタッフのスキルアップを図る。

- 普及スタッフのクリケットヴィクトリアへの派遣、3度にわたるクリケットヴィクトリアやクリケットオーストラリアなどのスタッフ招聘により、普及スタッフのプログラムの計画、実施に関する職務研修を実施した。高いレベルのプログラムの実施に関わることで、クリケットブラストの目指す形やオーストラリアでの成功事例への理解を深め、プログラムの内容や実施について改善が図れた。

4. 関東ジュニア大会

関東地域において、ジュニア大会を整備する。

- 過去最多の8チームがU15全国大会に参加し、この年代での競技人口の増加を表した。
- リーグ戦に於いては、タイガースCC、上宮中学校高等学校クリケット部、千葉マイワイズ、北関東ブレイブス、昭島クリケットクラブが参加した。
- また、2016年シーズンのU19及びU15世代の大会構造の提案を作成し、チームマネージャー会議を開催して協議し、2016年シーズンの大会準備を開始した。

5. ハードピッチ(ワールドカップ助成事業)

ワールドカップ助成金を活用し、各地域でのハードピッチの設置を図る。なかでも北関東以外の関東地域に2つのハードピッチの設置を図る。

- 北海道、東関東、西関東でハードピッチの設置に向けて取り組んだほか、南関東(YC&AC)でのフレックスピッチの購入のためにワールドカップ助成金の獲得に向けて取り組んだ。各地域の詳細は次の通り。
- 北海道では、候補地の視察や所有者との交渉を実施したが、所有者が変更になり、グラウンドの利用やピッチの設置は白紙となった。
- 東関東では、2020年にスリランカのオリンピックチームの直前合宿地となった山武市を東関東の「クリケットのまち」とし、普及及びグラウンド設置を進めることを、山武市及び東関東クリケット協会と合意した。2015年には、山武市での会議、山武市による佐野市視察、山武市内での学校訪問を実施した。クリケット場は、さんぶの森に造成することを合意し、2015年11月には千葉カップが市の後援で開催され、2016年の大会の年間予約について合意した。現在、ハードピッチの設置時期について交渉を継続している。ワールドカップ助成金の初期申請も完了した。
- 西関東では、昭島市と交渉し、2016年に完成予定の総合運動施設にクリケット場を含める提案を受けた。



総合運動施設になるため、クリケット場としての広さや利用日の確保が限定的である可能性があり、本件の実現に向けて交渉を継続するとともに、その他の施設についても交渉を継続する。

- 南関東では、YC&ACと協力し、フレックスピッチの購入のためのワールドカップ助成金の初期申請を完了した。現在あるピッチは、練習ネットの設置に使用される予定。

6. 女子クリケットの発展

女子の大会の強化、チーム数の増加、社会人チームと大学チームの連携強化、コーチング支援を実施する。

- 女子コミッティ、女子代表、学連などで女子チームや選手のヒアリングを実施し、女子クリケット界を発展させる改善策の協議を進めた。2016年にも協議を継続し、女子クリケットの発展に努める予定。

7. 強化拠点の整備 (ICC助成金事業)

旧田沼高校運動場の整備を進め、国際試合企画に近づけるとともに、日本代表の強化拠点に必要な整備を実施する。

- オーストラリアから専門家を招聘し、旧田沼高校運動場の天然芝ピッチの改善を実施した。
- 強化拠点としての整備を進めるべく、ICCと佐野市から、合わせて約600万円の予算を確保した。2016年3月に、ナイター付きの練習ピッチ(3レーン)が完成する予定。
- 佐野商工会議所より50万円の助成金をいただき、アウトフィールドの芝の改良を実施した。
- IHIシバウラより天然芝ピッチ用の芝刈り機を無償で提供いただいた。
- 佐野市と国際クリケット場の整備に関する協議を進め、旧田沼高校運動場を国際クリケット場として段階的に整備する方針を確認した。

8. 国際大会の実施

男子、女子、U19などの2国間または3国間の国際大会の企画・参加により、日本代表の強化に努めるとともに、その一つを日本開催することで国内の競技認知向上を図る。

- 東アジアにおける継続的な国際大会の開催について、香港、韓国、中国と合意し、2015年には香港ドラゴンズと男子日本代表の相互遠征、韓国への学生代表遠征及び女子日本代表遠征を実施した。
- 香港、中国、韓国と協議し、今後毎年男女の東アジアカップを交互に開催すること、2016年には男子大会を日本で、2017年には女子大会を香港で、2018年には男子大会を中国で、2019年には女子大会を韓国で開催することが決定した。

9. 地域協会支援

地域協会とともに各地域の優先目標2つずつ定め、その遂行を支援し、目標の60%の達成を図る。

- 8つの地域協会が14の優先目標を定めた。14の優先目標のうち6つは達成され、2つは部分的に達成された。

10. 組織の効率化 (ICC助成金事業)

組織の効率化及び職場文化の向上を図るため、研修を実施するとともに、事務局のパフォーマンスを図る手法を開発し、その成果をモニターする。

- 「ウェルカムな」、「元気な」、「計画的な」職場文化及び評判の形成を目指すことを決定し、継続的に職場文化の向上を図った。
- 外部コンサルタントを招聘し、3度にわたるスタッフ研修の他、語学研修なども実施した。
- 事務局の評価を図るアンケートを作成し、2016年にはモニタリングを実施する予定。

11. ボランティア戦略

ボランティア戦略を策定し、計画的なボランティア募集、育成、表彰を実施する。

- ボランティア戦略及びボランティアプログラムを立案した。2016年に試用する予定。

12. スポンサーシップ (ICC助成金事業)

諸事業の価値評価、スポンサープログラムの刷新、スポンサー営業などを実施し、新規スポンサー収入を500万円獲得する。

- 在日のインド人コミュニティや英国コミュニティ、在メルボルンや在ロンドンの日本コミュニティとのコネクションを強化し、クリケット及び日本のクリケットの認知及び理解の向上を図った。
- 日本クリケットにおけるプロパティ及びその価値に関する調査、スポンサーシップ獲得活動などの外注に関して、広告代理店やスポーツマーケティング会社と交渉した。交渉した会社の調査手法は、どこもメディア露出に基づくため、メディア露出の少ない当協会の現状及び要望に合致する会社の選定には至らなかった。
- 他の優先目標の遂行を優先するため、本件については2015年中の達成を保留することとした。



- 今後は、特に日本代表、クリケットブラストプログラム、大会などをスポンサーに魅力あるプロパティにすることで将来的なスポンサー獲得を可能にすること、そして、「クリケットのまち」におけるサポータークラブの充実を図ることで収入増加に取り組む予定。

13. その他の収入

佐野市及び昭島市におけるサポータークラブを拡大・創設し、活動の拡大や事業の財政基盤を強化する。

- 佐野市のサポータークラブからは、前年を上回る500万円の助成金を得た。また、昭島市におけるサポータークラブの設立に向け、関係者との協議を進め、2016年の創設を予定している。
- サポータークラブ以外では、佐野商工会議所より200万円の助成金、豪日基金より7,440豪ドルの助成金、IHIシバウラより芝刈り機の無償提供をいただいた。
- また、2016年には、佐野市より施設整備及びMCCとの人的交流における予算の大幅な増加、日本プラスターより事務所内装の漆喰塗りの無料提供をいただく予定。

14. 長期的な普及プロジェクト

学習指導要領へのクリケットの明記、教職課程でのクリケットの紹介、普及拠点の増加・発展などを図るため、出版社、教育関係者、スポーツ団体、政府機関などとの関係強化を図る。

[普及拠点の増加・発展]

- 佐野市においては、日本スポーツ振興センターの助成を受け、佐野市スポーツと地域の活性化研究会議が開催され、報告書が完成。研究会議の成果を通して、佐野市におけるクリケットの位置づけの強化及びより全市的な取り組みが促進された。また、佐野市訪英団に参加し、佐野市長をはじめとする訪問団がMCC会長と面談し、親書を受け取った。また、ローズクリケット場での試合観戦やハムステッドクリケットクラブの視察などが実施され、佐野市におけるクリケットの理解が深まった。
- 東京五輪においてスリランカ選手団の受け入れが決まった千葉県山武市と協議し、山武市を東関東における「クリケットのまち」とすることを目指すことが確認された。
- 西葛西リトルインド構想との協力を合意し、8月15日に江戸川陸上競技場でインドチームと日本チームの試合及び千葉モンスタースとインド人学校の試合が開催された。今後も西葛西を中心とするインド人コミュニティとの関係強化を図る。

[学習指導要領への明記]

- 学習指導計画案を作成し、佐野市における小教研研究事業、昭島市における体育モデル事業などの実績及び資料作りを推進した。特に昭島市においては、小学校3年生から中学3年生までの体育におけるクリケット授業の指導計画を教育委員会と共同開発し、2016年4月から教育委員会の推奨をいただいて市内全校で教員によるクリケット授業の実施を目指す。

[関係団体との関係強化]

- JOC国際部訪問、文部科学省の今後の地域スポーツ推進体制の在り方に関する有識者会議の傍聴など関係団体との関係強化に努めた。また、日本体育学会に参加し、当協会の取り組みを紹介したほか、実技研修会を実施した。さらに、日本スポーツ振興センターに協力し、2016年1月に予定されるメルボルン訪問を支援する予定。

2 事業の実施に関する事項

(用語及び記号の定義)

国際クリケット評議会:International Cricket Council:以下「ICC」とする。

東アジア太平洋地域:East-Asia-Pacific Region:以下「EAP」とする。

事業項目は、JCA5カ年戦略(2013年～2017年)の重点事業とする。

事業計画に対する実施状況の表記:

- ☆:期待以上の大きな成果が表れた事業
- :進捗があり、成果も表れた事業
- △:進捗があったものの、あまり成果が表れなかった事業
- ー:大きな進捗がなかった事業

【普及関連事業】

目的:地域社会において認知度及び体験者を大幅に増加させる。

意義:特に学校を通して、また地域密着型で、認知度及び体験者の増加を図る。普及が進んでいる地域において競技の更なる確立を図るとともに、他の地域への拡大も図る。

事業名	事業内容	実施状況	備考
CRICKET BLAST プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栃木県佐野市、東京都昭島市及び新たな地域において、小学校を主なターゲットとして、学校訪問、大会開催等によりクリケットの競技紹介を促進する: <ul style="list-style-type: none"> - 授業への導入 - スクールカップの開催 - シリーズの開催 - 教職員研修会の開催 - 教材の開発 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点地域の佐野市、昭島市では、学校訪問等で、約 5,800 人にクリケットを紹介した。 ・ 佐野市、昭島市では、スクールカップをそれぞれ 2 回実施し、8～10 チームが参加した。 ・ 佐野市、昭島市では、シリーズを実施し、156 人が参加した。 ・ CRICKET BLAST リーダー研修会を佐野市及び昭島市実施し、17 人が受講した。 ・ 佐野市では、小教研体育部会の研究授業としてクリケット授業の実施を支援した。 ・ 昭島市では、教育委員会と指導計画を共同開発した。
CRICKET FOR SMILES プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災復興支援事業として、教職員研修会の実施、教材の提供、大会の開催、東北地域協会の指導者育成支援などを行う。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北クリケット協会の指導員を佐野市の CRICKET BLAST シリーズに招聘し、プログラムを紹介した。 ・ 福島県南相馬市の中学校でクリケット教室を実施した。 ・ United Sports Foundation のスポーツキャンプ(福島県郡山市)に協力し、クリケット活動を指導した。 ・ 宮城県登米市の中教研体育部会で教職員研修会を実施した。 ・ 東北地方におけるスポーツ・教育関係者との関係を構築し、東北における「クリケットのまち」の候補地の選定を開始した。
CRICKET BLAST 間接的普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学会に参加し、競技の認知度向上を図り、教職員や教材メーカーにクリケットの導入を提案する。 ・ JET プログラム参加者を対象とする研修会の実施、教材の提供などにより、クリケット授業の実施を支援する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本体育学会に参加し、教職員向けのセミナーや体験会を実施した。 ・ 駐日英国大使館や駐日ニュージーランドを通して JET プログラムによる来日者にクリケット授業の実施に対する支援について紹介し、道具や教材の提供など支援を実施した。
地域メディアとの関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点地域における認知度向上のため、地域メディアと強い関係を構築する。 ・ プロモーションイベントの開催を通じて、地域メディアへの露出と実施地域における認知度向上を図る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点地域を中心に地域メディアとの関係強化に努めた。 ・ 東アジアシリーズ・佐野英国祭、ジャパンカップ、昭島クリケット祭り、CRICKET VICTORIA や CRICKET WITHOUT BORDERS との人材交流などを通じて、地域メディアへの露出を獲得し、実施地域における競技の認知度向上を図った。
ウェブサイト及びソーシャルメディア	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技及び協会の発信力を高めるため、コミュニケーション戦略を策定し、広報活動を強化する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディア・コミュニケーション戦略を策定し、新しいウェブサイトの作成に取り組んだ。新しいウェブサイトは 2016 年 3 月に完成予定。



【大会関連事業】

目的: 強固な大会構造を構築し、競技人口を増加させる。

意義: 競技人口を増加させることで、より多くの人々の生活やコミュニティを幸せで豊かなものにし、人材を豊かにする。また、競技の商業的価値を高めることで、競技への投資を伸ばす。

事業名	事業内容	実施状況	備考
ジュニアクラブの発展	・地域のジュニアクラブを企画・運営・設立支援する。	○	・佐野ジュニアクラブのプログラム改善に努めメンバーを 57 名に増加した。 ・昭島ジュニアクラブを設立し、21 名のメンバーが入会した。
グラウンド整備及びピッチ開発	・地域協会によるグラウンド獲得を支援する。	○	・富士第 1、第 2 グラウンド・佐野第 1～第 4 グラウンド及び、旧田沼高校運動場の整備を実施した。 ・北海道、東関東、西関東におけるグラウンド獲得活動を支援した。 ・南関東において、フレックスピッチの購入に対する助成金の申請を支援した。
研修・教育コーディネーターの育成	・コーチ、アンパイアなどの講習会を開催する。	○	・CRICKET BLAST リーダー研修会、初心者コーチ講習会、レベル 1 コーチ講習会、JET 教員研修会、ボランティア研修会及びアンパイア講習会を開催し、157 人が受講した。
大会の発展	・各地域の主要大会の運営を支援する。 ・U15 や U19 世代の地域大会の設立及び発展を支援する。	○	・各大会運営委員会の運営支援・助言を実施した。 ・関東におけるジュニア大会の実施し、2016 年の大会構造について関係者と協議し、2016 年シーズの準備を開始した。
地域大会実施の支援	・地域協会による、T20 形式や 6 人制などの短い試合の大会開催を支援する。	○	・各地域においてジャパンカップに連なる T20 地域大会の実施を支援した。 ・ジャパンカップの北関東大会と南関東大会の 2 大会には、新規に 7 チームが参加した。 ・簡易形式の佐野社会人リーグには、3 社から 6 チームが参加した。また、昭島クリケット祭りには 12 チームが参加した。

【強化関連事業】

目的: 次世代のファンやプレイヤーをインスパイア(刺激/鼓舞)する強い男女の日本代表を育成する。

意義: 目標・あこがれとなり、競技を魅力的なものにするような日本代表チーム、選手、そして大会を育てることで、認知度、競技参加者及び競技人口の増加を図り、新しい機会を創出する。特に女子日本代表には、世界ランキングで上位を狙う現実的な可能性がある。

事業名	事業内容	実施状況	備考
育成・強化プログラム	・才能あるプレイヤーを発掘し、育成するため、適切な強化プログラムを実施する。 ・選手の海外留学を促進する。	○	・男女の強化プログラムを実施した。 ・女子 2 選手の海外留学を支援した。
全国大会の発展	・男子、女子、大学、U19、U15 の各カテゴリーの全国大会を開催する。	○	・男子、女子、大学、U19、U15 の各カテゴリーの全国大会を開催した。 ・男子のジャパンカップには、過去最多の 9 チームが参加した。
強化試合及び国際大会出場	・男子、女子、U19 などの 2 国間または 3 国間の国際大会の企画・参加により、日本代表の強化に努めるとともに、その一つを日本開催することで国内の競技認知向上を図る。	○	・東アジアにおける継続的な国際大会の開催について、香港、韓国、中国と合意し、2015 年には香港ドラゴンズと男子日本代表の相互遠征、韓国への学生代表遠征及び女子日本代表遠征を実施した。 ・香港、中国、韓国と協議し、今後毎年男女の東アジアカップを交互に開催すること、2016 年には男子大会を日本で、2017 年には女子大会を香港で、2018 年には男子大会を中国で、2019 年には女子大会を韓国で開催することが決定した。
女子クリケットの発展	・女子の大会の強化、チーム数の増加、社会人チームと大学チームの連携強化、コーチング支援を実施する。	△	・女子コミッティ、女子代表、学連などで女子チームや選手のヒアリングを実施し、女子クリケット界を発展させる改善策の協議を進めた。しかし、日本の女子クリケット界を取り巻く状況の改善には至っていない。



強化拠点の確立	<ul style="list-style-type: none"> 旧田沼高校運動場の整備を進め、国際試合企画に近づけるとともに、日本代表の強化拠点に必要な整備を実施する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアから専門家を招聘し、旧田沼高校運動場の天然芝ピッチの改善を実施した。 ICC と佐野市より 600 万円の予算をいただき、2016 年 3 月には、ナイター付き練習ネット(3 レーン)が完成する予定。 佐野商工会議所より 50 万円の助成金をいただき、アウトフィールドの芝の改良を実施した。 IHI シバウラより天然芝ピッチ用の芝刈り機を無償で提供いただいた。 佐野市と国際クリケット場の整備に関する協議を進め、旧田沼高校運動場を国際クリケット場として段階的に整備する方針を確認した。
全国メディアとの関係構築	<ul style="list-style-type: none"> メディア戦略を策定し、国際大会の開催やプロモーションイベントなどを通じて、全国規模でのメディアへの露出及び認知度向上を図る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> メディア戦略を策定した。 朝日新聞、テレビ東京、TBS ラジオ、J-WAVE、日刊 SPA !、Nippon.com などに取り上げられた。

【組織関連事業】

目的:日本クリケット界に、強く、透明性の高い、責任あるリーダーシップを発揮する。

意義:良いガバナンスと組織運営は、他の全ての戦略の柱の成功を支えるものとなるため、最善のスポーツマネジメント原則に適応させた組織にし、日本クリケット界に強い指導力を発揮する必要がある。

事業名	事業内容	実施状況	備考
ガバナンスの改善及び公益社団法人への移行	<ul style="list-style-type: none"> 組織のガバナンスを改善し、組織の効率化を図る。 公益社団法人に移行する。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人を設立し、公益認定申請の準備を実施した。2016 年には公益社団法人への移行が完了する見込み。
健全な事務所環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの研修や事務所環境の改善を図り、組織の効率化を図る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> イベント&コミュニケーション・コーディネーターを雇用了。 「ウェルカムな」、「元気な」、「計画的な」職場文化及び評判の形成を目指すことを決定し、継続的に職場文化の向上を図った。 外部コンサルタントを招聘し、3 度にわたるスタッフ研修の他、語学研修なども実施した。 事務局の評価を図るアンケートを作成し、2016 年にはモニタリングを実施する予定。 事務所のオフィス家具や内装を工夫し、事務所環境の改善を実施した。
ICC EAP や Cricket Victoria との連携	<ul style="list-style-type: none"> ICC EAP や Cricket Victoria との強固な連携により、CRICKET BLAST プログラムの改善、スタッフ育成、組織の効率化、施設拡充、スポンサー獲得などで支援を受ける。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ICC EAP, Cricket Victoria, Cricket Australia の連携を強化し、CRICKET BLAST プログラム、スタッフ育成、施設整備などの支援を得た。 ICC より、CRICKET BLAST プログラム、メディア・コミュニケーション、人材育成のための助成金を獲得した。
ステークホルダーリレーション	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション戦略を策定し、クリケットコミュニティへの情報発信を強化する。 	△	<ul style="list-style-type: none"> メディア・コミュニケーション戦略を策定した。新しいウェブサイトが完成する 2016 年 3 月ごろに合わせて実施を進める予定。
地域協会の設立	<ul style="list-style-type: none"> 地域協会の設立を支援するとともに、地域協会の優先目標の策定及び達成を支援する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域協会設立、運営などの支援を実施した。 8 つの地域協会が 14 の優先目標を定めた。14 の優先目標のうち 6 つは達成され、2 つは部分的に達成された。

【財務関連事業】

目的:収入を増加させることで、事業への投資を伸ばす。

意義:競技の普及・発展を大きく促進するためには、それを支える投資が必要であり、そのために収入の増加を図る必要がある。

事業名	事業内容	実施状況	備考
スポンサーの獲得	<ul style="list-style-type: none"> 諸事業の価値評価、スポンサープログラムの刷新、スポンサー営業などを実施し、新規スポンサー収入を 500 万円獲得する。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 在日のインド人コミュニティや英国コミュニティ、在メルボルンや在ロンドンの日本コミュニティとのコネクションを強化し、クリケット及び日本のクリケットの認知及び理解の向上を図った。 日本クリケットにおけるプロパティ及びその価値に関する調査、スポンサーシップ獲得活動などの外注に関して、広告代理店やスポーツマーケティング会社と交渉した。交渉した会社の調

			<p>査手法は、どこもメディア露出に基づくため、メディア露出の少ない当協会の現状及び要望に合致する会社の選定には至らなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の優先目標の遂行を優先するため、本件については 2015 年中の達成を保留することとした。 今後は、特に日本代表、クリケットブラストプログラム、大会などをスポンサーに魅力あるプロパティにすることで将来的なスポンサー獲得を可能にすること、そして、「クリケットのまち」におけるサポータークラブの充実を図ることで収入増加に取り組む予定。
国内スポーツ関係機関との関係強化	<ul style="list-style-type: none"> JOC、JSC などの国内スポーツ関係機関との関係強化に努める。 	○	<ul style="list-style-type: none"> JOC 国際部訪問、文部科学省の今後の地域スポーツ推進体制の在り方に関する有識者会議の傍聴など関係団体との関係強化に努めた。また、日本体育学会に参加し、当協会の取り組みを紹介したほか、実技研修会を実施した。さらに、日本スポーツ振興センターに協力し、2016 年 1 月に予定されるメルボルン訪問を支援する予定。
地域協会の財政的自立を促進	<ul style="list-style-type: none"> 地域企業の支援や適切な受益者負担モデルの構築により、地域協会の財政的自立を促進する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 重点地域の栃木県佐野市や東京都昭島市にて、地域企業の支援やジュニアクラブのメンバー拡大によって、各地域での事業の財政的自立を促進した。
ICC 助成金	<ul style="list-style-type: none"> ICC 助成金の最大化を図る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ICC よりターゲットサポート国の一つとして認定され、2016 年におけるサポートパッケージを獲得した。 助成金スコアカードランキングは上昇したが、助成金の配分の変更により、2016 年の助成金は 2015 年とほぼ同額となった。
新規財源の開発	<ul style="list-style-type: none"> クリケットブランド化された清涼飲料用自動販売機の設置台数の増加により、寄付金の増加を図る。 	○	<ul style="list-style-type: none"> クリケットブランド化された清涼飲料用自動販売機の設置台数の増加により、活動資金の寄付が増加した。